

7月15日(月祝)海の記念日。清水の日本平にある「赤い靴の親子像」の管理組合からのお誘いがあった。新幹線の往復チケットが郵送されてきました。現在、テレビ関係のアンテナ6個が1個になってすっきりとしたのを機に、日本平周辺に木を組み合わせた回廊ができ、富士山の眺望や周辺の半島、清水の町並みの景色が一段と精彩を加え、観光地としての人寄せも計算される中で、親子像の設置場所も変わってもう一つ魅力がほしいと管理団体皆で考えたのが音楽を流すことです。像の近くに「QRコード」を印刷した案内板を建てスマホで読み取ると「赤い靴の童謡」がスマホに録音されいつでも聴かれます。また、全国6カ所にある像の写真も見られます。また、本日同封の赤い靴の像保存版ちらしでも案内しています。

木組みの回廊は東京オリンピックのメインスタジアムの設計者「隈 研吾さん」の設計だそうでおしゃれでした。また、合唱は清水で頼まれて赤い靴ジュニアコーラスが他では入れていない五番も歌ってCDにして観光組合にお送りし毎日流れているのです。当日はテレビ局が3社来て小さな除幕式を静岡地方の画面に流したと言います。ちなみに赤い靴ジュニアコーラスだけ許された5番というのは「生まれた日本が恋しくば/青い海ながめているんだろ/異人さん」にたのんで帰って来(こ)というのです。

組合長は「観光客が不思議がるのですよ。なぜここに「赤い靴」の像があるのかってね」と言うそばから「これ横浜の歌だよ」と生まれ変わった日本平を見に来た人が言っていました。その下に物語の説明版があるのですが長くて読み切れないのかもしれない、物語のヒロインが清水の子であったのです。

私たちの横浜の像は今年の11月11日に40周年になります。特別の物語も実話もないままに(あえて言えば1980年の1月1日発行の広報よこはまの見開きに掲載された松永 春 作の(赤い靴)でしょうか)ヒューマンテイーが根底に流れる野口雨情の詩を忠実に形にしました。私が発想したのは大分前のことでした。物語の「きみちゃん」は「北海道テレビの開局10周年記念」で赤い靴はいたた女の子を企画し準備しているというお話をプロデューサーの菊地 寛(きくち ひろし)さんが見えてお聴きしました。その後映像が全国のテレビ朝系の番組に流れ、本も発行されたのです。そのヒロイン「きみちゃん」はこの清水生まれだと言うことで物語の始めに書かれています。その後北海道に渡り、結核を患い、六本木の鳥居坂教会の孤児院に移り、異人さんの国には行っていないと言うのが物語です。しかしこの方たちも私たちと同じにロマンを求めメルヘンに酔う人でもある訳なのです。清水市(現在は静岡市清水区)の観光協会は子どもの建設のノウハウを聴いて多くのご寄付を募り、1986年3月に建ちました。私もこの除幕式にご招待されお伺いしたのです。その後、この物語を機に「麻布十番」「北海道留寿都」「函館」「小樽」「青森鰯ヶ



3回目 カーテンコール



4回目 カーテンコール



スパークリングトワイライト 山下公園

ミュージカル「ワタシノユメ」
集合写真 関内ホール



今後のスケジュール

8/21(水)	「やすらぎコンサート」 ラ・ポール(新横浜) 横浜市民子どもミュージカル出演 14時開演 入場券1000円(ただし赤い靴関係者は800円)当日券は1200円
8/23(金)	東六思 メルパルク11時 ゲスト 樋口広芳先生 鳥獣学者。農学博士東京大学名誉教授 NHK チョちゃんの説明者
9/21(土)	「歌の贈りもの」 横浜開港記念会館 みんなで歌おう! 楽しく歌おう! 横浜☆男声合唱団他 詳細後日
10/13(日)	「ハローよこはま」 県庁前特設ステージ 赤い靴ジュニアコーラス出演 赤い靴ミュージカルキッズ出演
10/19(土) 20(日)	県民ホール オペラ カルメン 演出 倒した哲 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 児童合唱赤い靴ジュニアコーラス
10/27(日)	「東京湾大感謝祭」 時間後日 赤煉瓦倉庫まえ特設ステージ 赤い靴ミュージカルキッズ出演
12/24(火) 25(水)	クリスマス キャロル 5時、7時 インターコンチネンタルホテル 赤い靴ジュニアコーラス出演

沢」「札幌(石碑)」そして私どもの「赤い靴はいたた女の子USA」がカリフォルニア州サンディエゴ市」に建ちました。昨年、五大路子さんの「赤い靴の少女・母かよの物語」を機に全国の代表者が横浜に集まってフォーラムを開催したのです。アトラクションとして赤い靴ジュニアコーラスが歌い、清水の方から録音したのまれたのです。横浜の像はいきさつが違いますが、すべて根底に流れる愛情がテーマの詩と物語で像ができています。今後もいいお付き合いをしたいと思います。

さて、横浜市民子どもミュージカル「ワタシノユメ」は思いがけなく満席の中でチケットで苦労するという嬉しい悲鳴でした。

「春さん」と呼ばれていた子は衣装から髪の手まで過去を彷彿とさせる雰囲気を出しセリフも落ち着いて名役者でした。血液型まで聴いてきて当人に近づこうと努力していましたので「自分なりの春さんでいいから」と言ったのですが、かなりものに凝るような性格なので頼もしく思いました。

脚本は40年間の展開が見事に構成され、観客を飽きさせず笑いあり、涙ありで感動させてくれました。それぞれのソロの歌も心に響きました。キャストが的を得て、総体的には観客に大いに受けておりました。音楽もアップテンポの曲が似合いそれに合わせたダンスも迫力がありました。今のキッズ感と言いますか、かつての児童演劇を遙に凌駕したと評価します。

このダイジェスト版が8月21日(水)に昨年「忍しのび」を公演した新横浜のラポールシアターで横浜グリーンクラブが主催する「第251回やすらぎコンサート」の中でゲストとして迎えられ、「赤い靴ミュージカルキッズ」として出演します。入場券は前売り1000円が赤い靴事業団扱いで800円、当日券は主催者扱いで1200円になります。

また、今年も横浜文化体育館で「ジュニア体操選手権大会」がありますがご招待状を頂いています。8月12日〜17日(券は6日間共通) 将来のオリンピック選手への活躍を見てください。申し込みは事務局へ。

2019・7・30 団長 松永 春